

特集
1 宝くじ遊園

アソヴェの森



アソヴェの森は、ここ大森山に暮らす動物たちをテーマにデザインしました。

生きるために様々な進化をとげた動物たち。その体の不思議を学び、いつもと違う遊びの空間で、動物たちを観察することができる空中観察遊具。それが「アソヴェの森」です。

遊具としてのおもしろさはもとより、動物たちの不思議を紹介する学習パネル、情報発信としてのミルヴェ通信を備え、ワピチやトナカイたちを間近に感じながら、子供から大人まで楽しめる大森山動物園ならではの遊びと学びの空間になりました。

地形を生かし、ワピチ、トナカイ、マーコール、ラマの展示場がスカイウォークや通路でつながっており、様々な角度から動物を観察できます。また、この通路を使えば車椅子に乗ったままでもイヌワシ展示場まで行くことができます。

木立の中を滑走するローラースライダー、マーコールの岩山、ハンモックなど、遊びの要素も充実しています。

ミルヴェの情報発信地として、本物の動物たちに会いに行く前に、まずは動物たちの情報をキャッチ！見て、触って、動物の生態について楽しく学べるしかけがいっぱいです。

新たな視点での動物観察のヒントと、動物の生態の不思議を伝えます。



たいようの塔
高さ13mのたいようの塔からは、日本海を望むことができます



そよかぜローラースライダー
長さ30mのローラー滑り台



たいようの塔からのながめ



マーコールの角ヘルメットで記念撮影



たいようの塔の中のウォールクライミング



楽しく学べる学習パネル



マーコールの岩山で食事風景を観察



アソヴェの森 動物たちとの共生について ～リスクとハザード(遊具の安全性)を通して～



再整備担当 伊藤 博之

「リスク」と「ハザード」。聞き慣れない言葉かもしれませんが、遊具の安全に対する基本的な考え方です。

リスクは、事故を未然に回避する能力を育むような危険性や子どもが判断可能な危険性を、ハザードは、事故につながる危険性や子どもが判断不可能な危険性を言います。施設管理者として、リスクは適切に管理し、ハザードは除去しなければなりません。

ご存じのとおり、子どもには経験や身体能力に大きな個人差があり、小学校高学年にとってはリスクでも、幼児にとってはハザードになってしまうものもあります。しかしながら、子どもは危険性を解って挑戦しながら、肉体的にも精神的にも発達していくことも事実です。幅広い年齢層が利用

するこのような施設では、身長や年齢別に使用を制限することは、必ずしも望ましいことではありません。

アソヴェの森は、3歳から12歳の子どもを対象に設計されています。個々の遊具についても、利用方法のシールを貼っていますので、みんなでルールを守って楽しく遊びましょう。

それでは、アソヴェの森の住人たち(動物たち)にとってのリスクとハザードは何でしょうか？

資料館前からの動物不思議デッキ左のワピチとその反対側のトナカイ、ローラースライダー下のラマ、マーコールたちにとってのリスクとハザードとは？それは紛れもなく、アソヴェの森の「遊具」そのものに違いありません。

これまでは、来園者もあまり通ることのなかったマーコールとワピチの間の園路には人があふれ、頭上もわいわいがやがや！静かな田舎がリゾート地に急変したような

ものでしょう。おそらく、彼らにとってのリスクは、遊具の柱への衝突であり、ハザードは、落し物の誤飲や遊具設置によるストレスでしょう。

4月18日のオープンから、大きなトラブルもなく半年が経とうとしていますが、住人たちのエリアへの落とし物が多くなっています。落とした方が気づき、スタッフに知らせてくれることがほとんどですが、落としたことに気づかない場合もあります。タバコ1箱が、それも動物がいたずらした後で見つかったことがありました。誤食による体調不良を見極めるため、多くの時間を観察に要することもありました。

環境変化が彼らに及ぼすハザードを除去するため、我々動物園スタッフが努力していることは言うまでもありませんが、利用する皆さんにもまた協力していただかなければなりません。

ここ大森山動物園のアソヴェの森で動物たちと共生して行くため、持ち物を落とした場合、落とし物に気づかれた場合は、すぐに動物園スタッフにお知らせください。



利用方法のシール

ミルヴェニュースでは旬な動物の話題を知ることができます。

